

# 全国学力・学習状況調査分析結果

平成19年12月19日

下野市教育委員会

## 1 はじめに

下野市教育委員会では、全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、10月26日付けで、下記内容にて速報をお知らせしたところです。第二段階として、下野市全体としての分析結果を公表致します。各学校においては、この分析結果を踏まえ、学習指導の工夫改善に役立てていただくとともに、児童生徒の学習意欲の向上に向けて、参考にしていただきたいと思います。

### 《第一段階》(速報)

#### 1 小学校の調査結果について

国語のA・B問題、算数のA・B問題ともに、全国の平均正答率をどの領域も上回っている。特に、国語のB問題では、4領域の内「書くこと」が7ポイント、算数のB問題では、4領域の内「数量関係」が6ポイント、全国の平均正答率を上回っていた。

#### 2 中学校の調査結果について

国語のA・B問題、数学のA・B問題ともに、全国の平均正答率をどの領域も上回っている。特に、国語のB問題では、4領域の内「言語事項」が11ポイント、数学のB問題では、3領域の内「図形」が17ポイント、全国の平均正答率を上回っていた。

《国語A・Bの領域》 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」

※国語は小学校、中学校共通

《算数A・Bの領域》 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」

《数学A・Bの領域》 「数と式」「図形」「数量関係」

## 2 下野市全体の傾向

### (1) 学力調査の結果より

全国の平均正答率と比べ、小学校、中学校ともに国語A・B、算数A・B、数学A・Bにおいて、どの領域も全国を上回る結果となりました。

特に、各教科A・Bの中で、全国平均を大きく上回ったものは、次に示すとおりです。

小学六年生

国語A (知識) 「話すこと・聞くこと」

国語B (活用) 「書くこと」

算数A (知識) 「図形」

算数B (活用) 「数量関係」

中学三年生

国語A (知識) 「書くこと」

国語B (活用) 「言語事項」

数学A (知識) 「数量関係」

数学B (活用) 「図形」

また、小学校、中学校ともに国語、算数・数学のB(活用)が、全国平均に比べ高いポイントを示しており、その要因の一つとして「国語・算数(数学)が好き」「読書が好き」という児童生徒が多いことが挙げられると思います。

この結果を踏まえ、本市においては、各教科の設問の中で、特に児童生徒が苦手としている領域の設問内容を取り上げ、改善が必要と思われる事項を洗い出し分析を行いました。

その分析結果については、今後の児童生徒の学力向上に役立てるため、市内各小中学校にお知らせいたしました。

## 国語・算数（数学）の課題（概要）

### 国 語

小・中学校どちらとも、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国平均を上回っています。また、「国語の勉強は好き」「読書は好き」と答えた小中学生の割合がともに全国より高く、中学生で「読書が好き」と答えた割合が非常に高いことが、本市の特徴の一つとして挙げられます。今回の国語の結果については、良好な状態であるといえますが、以下のように課題も見られました。

#### 【小学校】

1点目は、国語Aの「漢字を正しく書く」という出題において、「相談」「焼く」の漢字の書きの平均正答率が7割前後とやや低かったこと、「物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し二文の構成にして書き換える」という問題の正答率が低かったこと等から「言語事項」に関して、漢字の書きと文章構成に不十分な点が見られたことです。

2点目は「話すこと・聞くこと」の領域です。インタビューの際の分かりやすい話し方や効率よいメモの取り方の工夫についてが不十分であったということです。

国語Bにおいても、文章の内容と資料からの情報を正しく読み取り、要約したり書き換えたりすることに課題が見えてきました。また、正答率が低い設問は、無答率が10～15%程度と高くなっていることも今後の課題であるといえます。

#### 【中学校】

国語Aでは、課題の1点目は小学校同様「言語事項」についてです。漢字の書きの「半減」「貸す」の2問の平均正答率が7割前後と低いという結果のとおり、文脈に即して漢字や熟語を正確に書けないということに課題があるといえます。

2点目は、手紙の頭語・結語等の書き方の理解が不十分であったことです。特に「手紙の後付けについて」の出題では、全国平均を上回ったものの正答率が7割を下回ったという結果でした。

国語Bでは、「3 書店の広告カード」についての問題が挙げられます。複数の資料から情報を取り出すこと、それについて自分の考えを説明することが得意でないという傾向が浮き彫りになりました。

### 算数・数学

算数A（知識）・算数B（活用）、数学A（知識）・数学B（活用）ともに平均正答率で全国を上回る好ましい状況でした。また「算数・数学が好き」と答えた小中学生の割合は、全国を上回り、正答率も高い傾向にありました。

#### 【小学校】

算数の課題としては、算数A「数と計算」の領域で『三つの分数と小数の中で最大の数を見つけ、数直線上に表すことができる』『小数の乗法の意味について理解している』の問題ではともに6割弱と低かったことから、数の意味や大きさの理解が不十分であることと、「何の何倍が何である」といった数量関係を適切にとらえられないことに課題がありました。

算数B「量と測定」の領域で『地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明することができる』の問題では、全国平均（17.9%）をやや下回っていました。この問題は、解決に必要な情報以外のものも多く含まれており、必要な情報を選択する力が不十分であるという課題がありました。

#### 【中学校】

数学の課題としては、数学A「図形」の領域で『円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ』の問題では、4割強の正答率で、平面図形の面積と空間図形の体積の違いを認識させることに課題がありました。

数学B「数量関係」の領域で『グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる』『問題解決の方法を数学的に説明することができる』の問題では、全国平均正答率とともに上回ったものの、5割を割る結果となりました。この問題は、ともに説明をする問題ですが、比例と一次関数を混同している誤答も多く、比例や一次関数という用語の理解が不十分であることに課題がありました。

## (2) 学習状況調査の結果より

全国の結果からも、「基本的生活習慣」「学習に対する関心・意欲・態度」「自尊感情・規範意識」「家庭でのコミュニケーション」といった内容と学力には相関関係が見られました。本市においても同様の傾向が見られました。

児童・生徒質問紙の集計結果のなかで、学力調査の平均正答率が高い傾向にあった質問内容は次に示すとおりでした。

### <基本的生活習慣>

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
「朝食を毎日食べていますか」	95.2	97.3	91.8	95.2
「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」	85.2	88.8	83.3	89.6
「身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか」	81.7	84.6	85.4	88.3

### <学習時間等>

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
「国語の勉強は好きですか」	59.8	64.0	56.8	57.5
「算数(数学)の勉強は好きですか」	65.1	69.4	51.4	58.2
「読書は好きですか」	71.4	75.8	68.2	78.8

### <自尊意識・規範意識>

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
「学校の決まりを守っていますか」	86.3	89.6	85.4	92.4
「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」	93.2	94.5	92.0	95.2
「家の人と学校での出来事について話をしていますか」	68.6	71.5	58.2	61.6

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計

または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

		市	全国(公)
調査対象	小学校 12校	604人	1,125,575人
人数内訳	中学校 4校	607人	1,023,316人

学力調査と学力状況調査(児童・生徒質問紙)の結果から、学力は、学習環境(学校・家庭・地域生活)と大きく関わりがあることが分かりました。また、学校質問紙の結果より、「熱意をもって勉強している」「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」児童生徒だと思ふ、と答えた学校の正答率が小中学校とも高い傾向にありました。この結果は、全国的な傾向でありましたが、本市においても同様の傾向にあり、小中学校ともに良好な状況だと言えます。

下野市の目指す学校教育は、「熱意あふれる教職員及び地域住民がその独自性を理解し、共通の意識の基、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成を目指す。」ということです。そのためにも、学校・家庭・地域社会が一体となり、しっかりとした基盤作りが大切だと思います。

今回の学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果は、良好な状態でしたが、学力・学習状況調査の分析結果を基に、各教科の課題や学習環境について、各学校・各家庭において、もう一度確認をしていただきたいと思います。

# 学習状況調査の分析結果

## 1 <基本的な生活習慣>

(1)「朝食を毎日食べていますか」、(4)(5)の就寝・起床時間については、下のグラフに示すとおり小中学生ともに好ましい状況にあると思われます。また、(2)「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」は、小学生は7割近く、中学生は7割強、(3)「身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか」は、小中学生ともに4割近くを示す結果となりました。

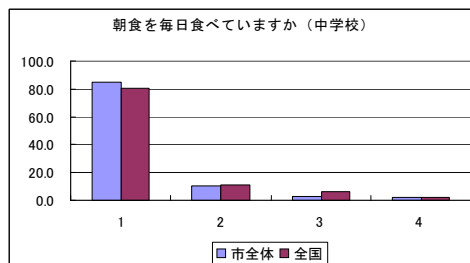
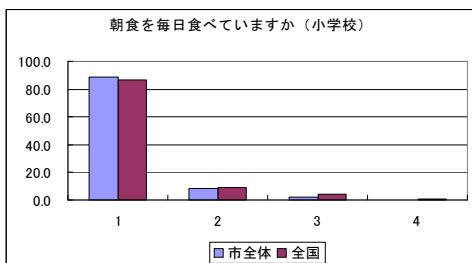
本市の小中学生は、基本的な生活習慣の項目が、全国を上回る好ましい状況で、「規則正しいまじめな生活態度」で生活している様子がうかがえます。

特に、問題点を挙げるならば、就寝時間が不規則な小学生は市全体の2割、中学生は市全体の3割いる点です。この点を改善していくためには、家庭での協力無しでは望めません。今後とも保護者の協力のもと、この良い状況を維持しながら規則正しい生活習慣を継続させていくことが望まれます。

質問項目	小学校 (%)		中学校 (%)	
	全国	市	全国	市
(1)「朝食を毎日食べていますか」	95.2	97.3	91.8	95.2
(2)「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか」	85.2	88.8	83.3	89.6
(3)「身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか」	81.7	84.6	85.4	88.3
(4)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」	71.9	80.9	67.0	71.3
(5)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」	88.7	91.5	89.2	90.7

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

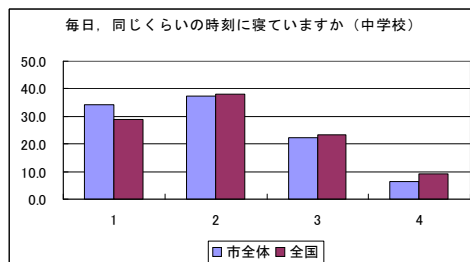
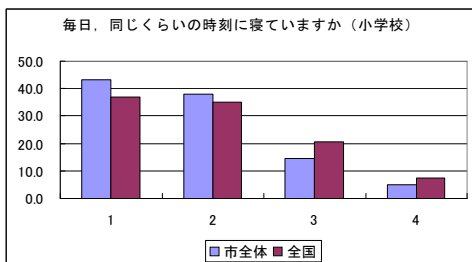
### (1) 朝食を毎日食べていますか



- <選択肢項目>
- 1 している
  - 2 どちらかといえば、している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない



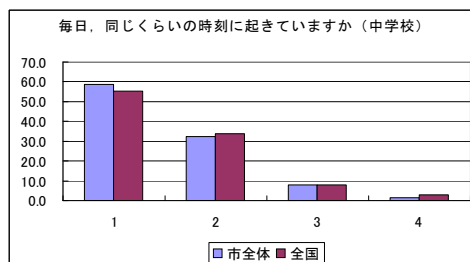
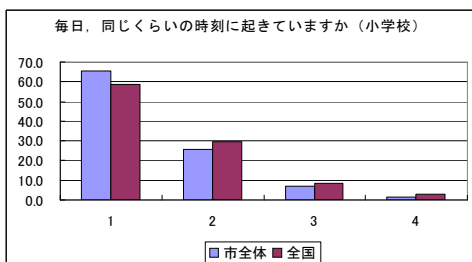
### (4) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



- <選択肢項目>
- 1 している
  - 2 どちらかといえば、している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない



### (5) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



- <選択肢項目>
- 1 している
  - 2 どちらかといえば、している
  - 3 あまりしていない
  - 4 全くしていない

## 2 <学習時間等>

### [家庭学習について]

「平日勉強をしている時間」「学校が休みの日に勉強をしている時間」は、ともに小学生では、1時間以上が6割以上、中学生では、7割強という状況でした。特に、中学生においては、全国より顕著に上回る状況が見られ好ましい状態にあるといえます。

### [授業の復習について]

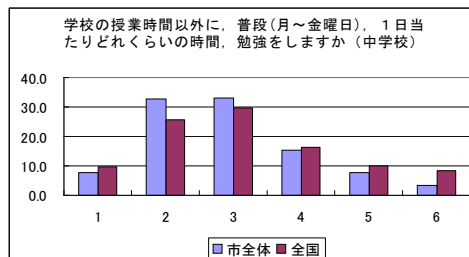
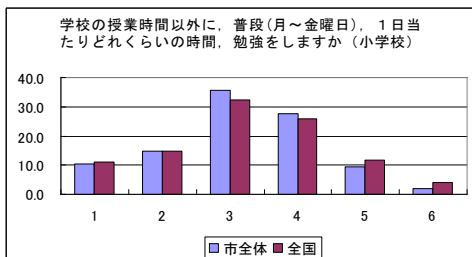
「授業の復習をしていますか」は、「している」「どちらかといえば、している」の合計は、ともに全国を上回っていました。特に、中学生は全国を大きく上回る結果となりました。

本市の小中学生の学習時間は、全国と比べ良い状態にあると思います。特に、「家庭での勉強時間」「授業の復習」について「全くしていない」と答えた小中学生が、全国の半分程度という結果でした。

「家庭での勉強時間」「授業の復習」の項目が良好な状態といえます。その理由としては、小中学生ともに家庭での学習の習慣化が図られていること、また中学生は塾へ通っている割合が全国より約8ポイント（グラフなし）高かったことも、その要因と思われます。

### (1) 【学習時間について】

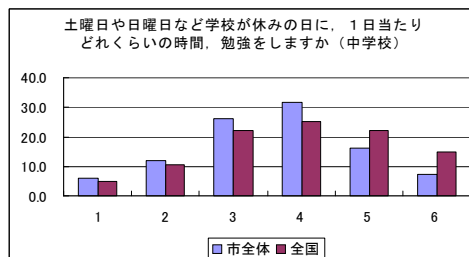
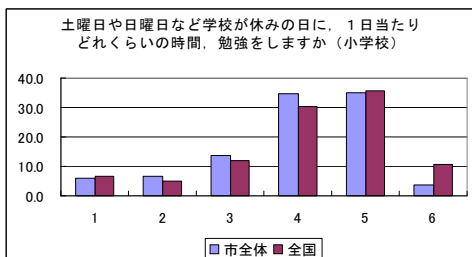
○学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



<選択肢項目>

- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしていない

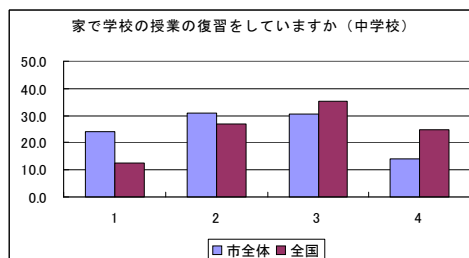
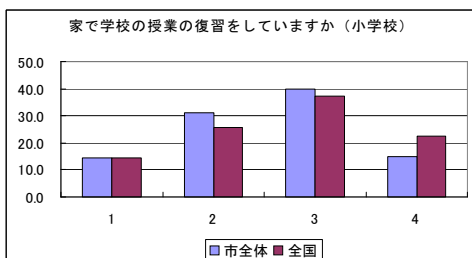
○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



<選択肢項目>

- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 1時間より少ない
- 6 全くしていない

○家で学校の授業の復習をしていますか



<選択肢項目>

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

## (2) 【国語・算数（数学）について】

「国語の勉強は好きですか」は、小学生は全国を上回る結果となりましたが、中学生は全国とほぼ同様の結果でした。また、「読書は好きですか」は、小中学生ともに全国を上回っており、特に、中学生においては、読書好きの生徒が過半数を占める結果でした。

「算数（数学）の勉強は好きですか」は、小中学生ともに全国を上回る結果となり、特に、中学生は、「当てはまる」の割合が大きく上回っていました。

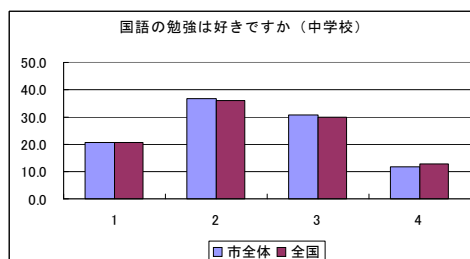
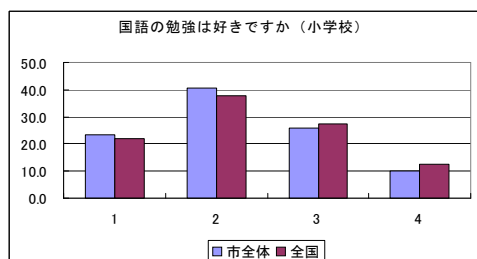
本市の小中学生は、国語、算数（数学）が好きで、特に、算数（数学）が好きな子ども達が多く、また、読書好きな子ども達も多いことが分かりました。

このことも、学力調査の市の平均正答率が、全国の平均正答率を上回った要因の一つと考えられます。

質問項目	小学校 (%)		中学校 (%)	
	全国	市	全国	市
(1) 「国語の勉強は好きですか」	59.8	64.0	56.8	57.5
(2) 「読書は好きですか」	65.1	69.4	51.4	58.2
(3) 「算数(数学)の勉強は好きですか」	71.4	75.8	68.2	78.8

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

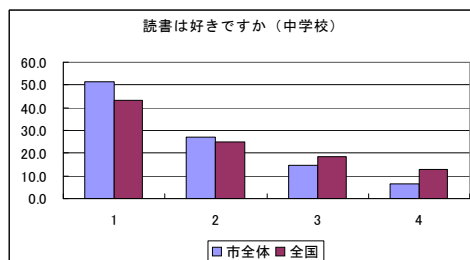
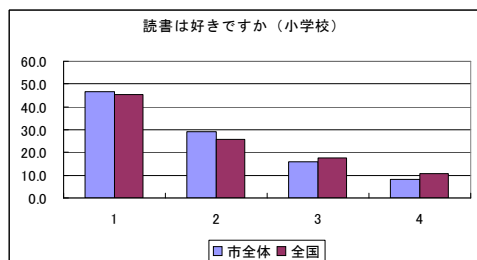
### (1) 国語の勉強は好きですか



＜選択肢項目＞

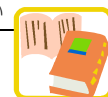
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

### (2) 読書は好きですか

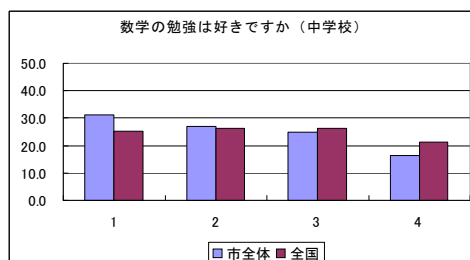
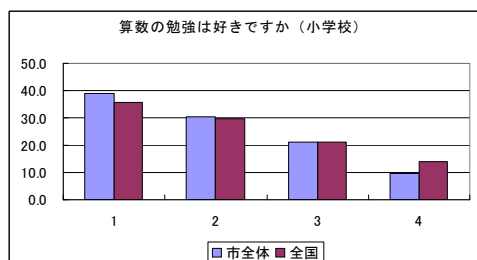


＜選択肢項目＞

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



### (3) 算数(数学)の勉強は好きですか



＜選択肢項目＞

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない



### 3 <学校生活>

(1)「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」は、小学生は全国と同程度、中学生は8割近くを示す状況でした。(2)「学校で好きな授業がありますか」は、小学生は8割以上を示しましたが、中学生では6割弱という結果でした。また、(3)「学校で楽しみにしている活動がありますか」は、小学生は7割強、中学生は6割弱という結果でした。

本市の小中学生は、学校生活を問う項目が、全国と同程度、またはそれを上回る好ましい状況でした。

全国に比べればよい状態ですが、問題点を挙げるならば「好きな授業がある」が、中学生は小学生より少ない状況でした。これは、授業内容が学年があがるにつれ難しくなっていることが要因の一つとして考えられます。

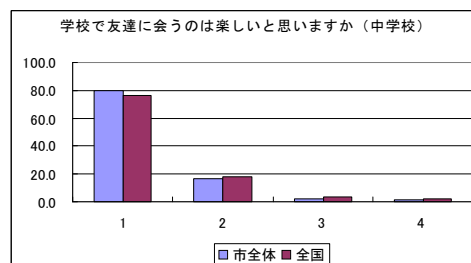
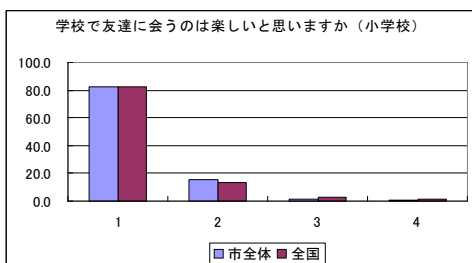
学校生活は、子ども達にとって一日の大半を占めています。その学校生活が子ども達一人一人にとって、楽しく有意義なものであるかが大切になってきます。

本市においては、この調査結果から、全国よりも上回っている良い状況といえます。今後も子ども達にとって、楽しく有意義な学校づくりを進めていくためには、学校・家庭・地域社会が一体となり連携・協力を深めていくことが大切になります。

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
(1)「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」	96.2	97.8	94.6	96.9
(2)「学校で好きな授業がありますか」	92.8	94.6	77.6	84.2
(3)「学校で楽しみにしている活動がありますか」	88.7	91.0	72.5	84.2

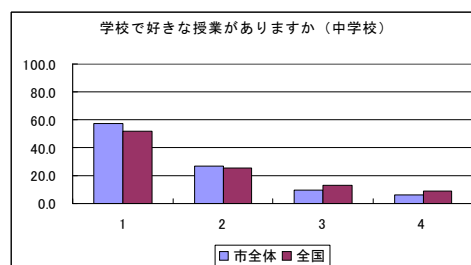
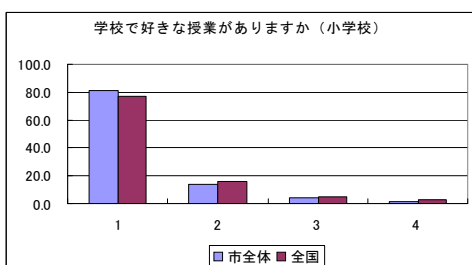
※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

#### (1) 学校で友達に会うのは楽しいと思いますか



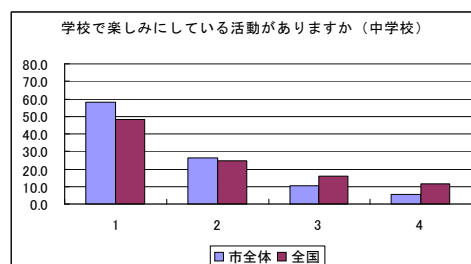
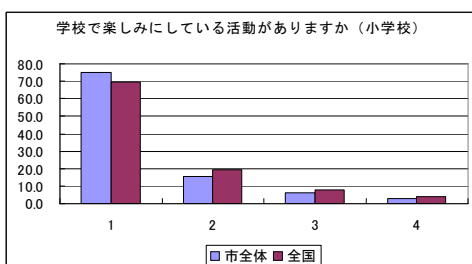
- <選択肢項目>
- 1 そう思う
  - 2 どちらかといえば、そう思う
  - 3 どちらかといえば、そう思わない
  - 4 そう思わない

#### (2) 学校で好きな授業がありますか



- <選択肢項目>
- 1 そう思う
  - 2 どちらかといえば、そう思う
  - 3 どちらかといえば、そう思わない
  - 4 そう思わない

#### (3) 学校で楽しみにしている活動がありますか

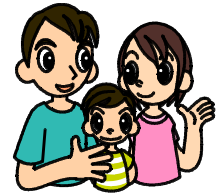


- <選択肢項目>
- 1 そう思う
  - 2 どちらかといえば、そう思う
  - 3 どちらかといえば、そう思わない
  - 4 そう思わない



## 4 <家庭でのコミュニケーション>

「家の人と、朝食・夕食を一緒に食べていますか」「学校での出来事について話をしますか」は、小中学生ともに全国より上回る結果でした。



本市においては、全国と比べ「家庭でのコミュニケーション」の時間が確保され好ましい状況にあると思います。

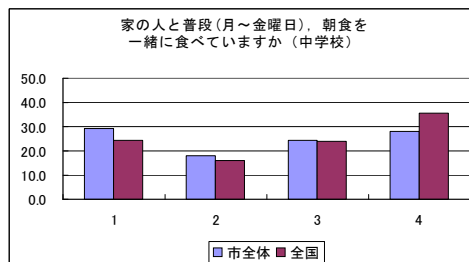
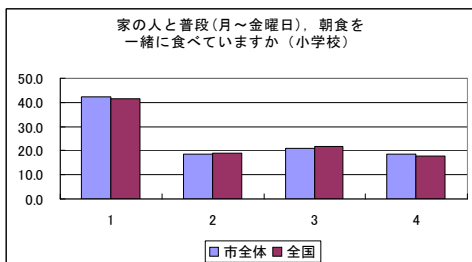
しかし、全国と比較すると良い状態ですが、問題点を挙げるならば、「家の人と学校での出来事について話をしていますか」について、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた小学生が市全体の3割弱、中学生が市全体の4割近くという結果が挙げられます。

改善策としては、やはり家庭でのコミュニケーションの時間を少しでも多く取れるようにしていくことが大切になると思います。

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
(1)「家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか」	60.6	60.6	40.5	47.4
(2)「家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか」	87.7	90.9	80.2	85.7
(3)「家の人と学校での出来事について話をしていますか」	68.6	71.5	58.2	61.6

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

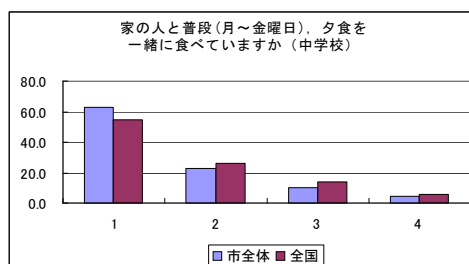
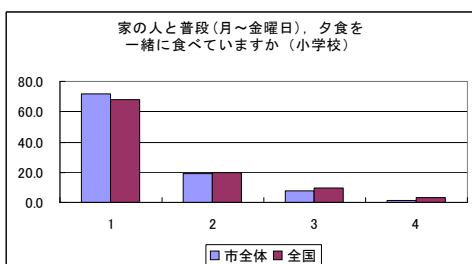
### (1) 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか



<選択肢項目>

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

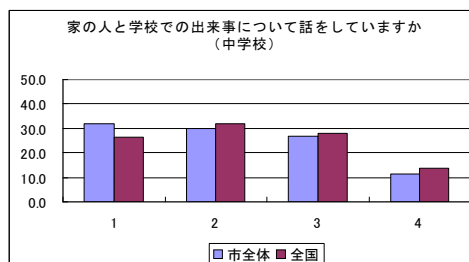
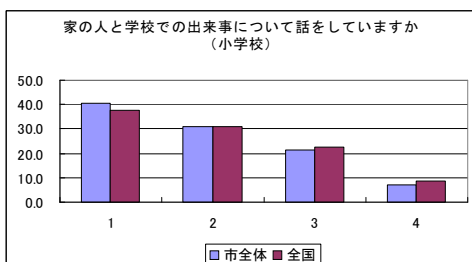
### (2) 家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか



<選択肢項目>

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

### (3) 家の人と学校での出来事について話をしていますか



<選択肢項目>

- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



## 5 <規範意識・自尊意識等>

規範意識・自尊意識等の項目の中で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた小中学生の内、特に全国を上回った項目は次のとおりでした。

「学校のきまりを守っていますか」(小・中)

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(中)

「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」(小・中)

「自分には、よいところがあると思いますか」(小・中)

また、他の項目についても、肯定的な回答をした割合が全国と同等かそれ以上の結果となりました。

本市においては、小中学生ともに共通した項目が全国を上回っており、規範意識・自尊意識等の項目について、好ましい状況にあると思います。

また、難しいことに挑戦する意欲も高く、何事にも自ら進んで取り組もうとする姿が現れていると思います。

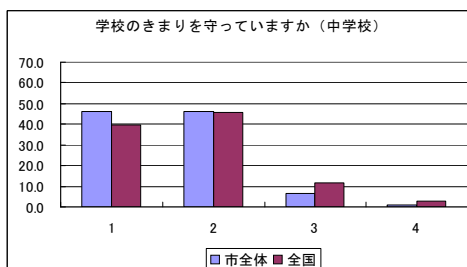
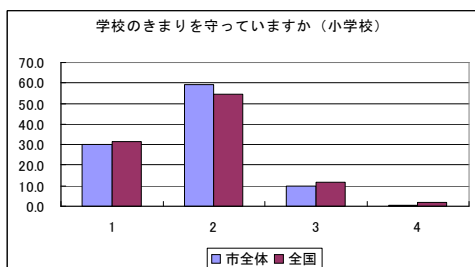
特に、問題点を挙げるならば、「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」の質問に対し「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」を選択した小学生が約10%、中学生が約16%いるということです。

「あいさつ」は、人と人とをつなぐ大切な役割を果たすものだと思います。子ども達が「心のこもったあいさつ」を心掛け、その大切さに気付くことができるよう、さらに「心の教育」にも重点を置くことが大切だと思います。

質問項目	小学校(%)		中学校(%)	
	全国	市	全国	市
(1)「学校のきまりを守っていますか」	86.3	89.6	85.4	92.4
(2)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」	94.7	95.7	87.7	92.2
(3)「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」	72.4	74.8	62.2	66.2
(4)「自分には、よいところがあると思いますか」	71.6	74.7	60.7	65.5

※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計

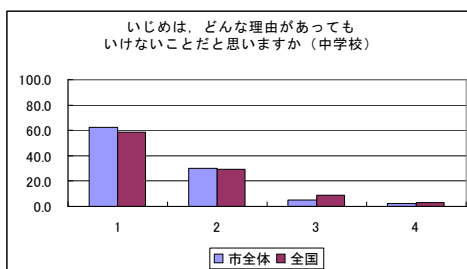
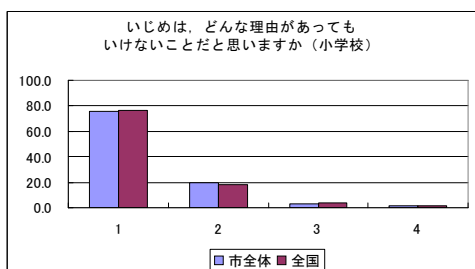
### (1) 学校のきまりを守っていますか



<選択肢項目>

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

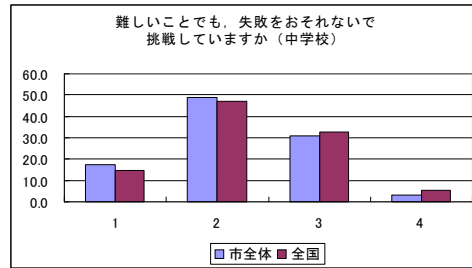
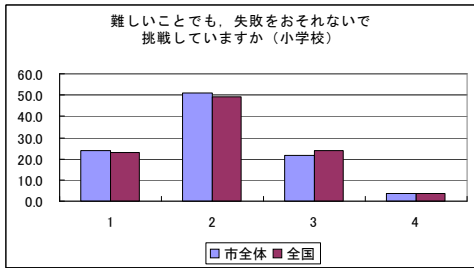
### (2) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



<選択肢項目>

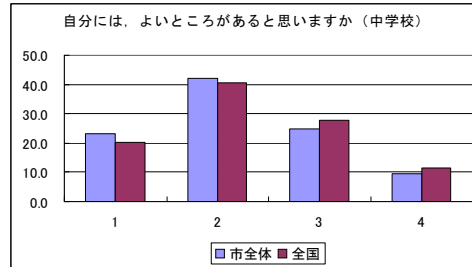
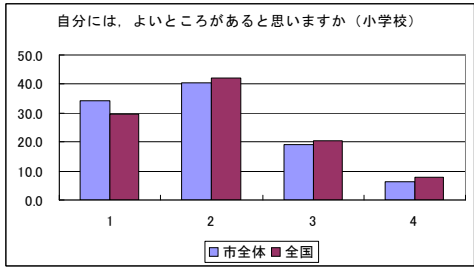
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(3) 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

(4) 自分には、よいところがあると思いますか



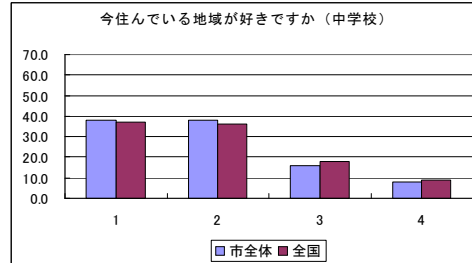
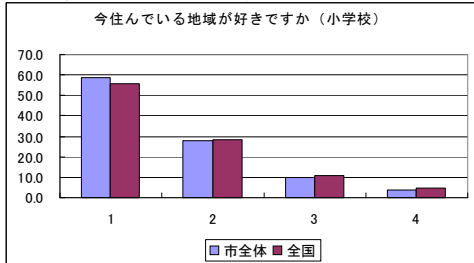
- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

## 6 <地域について>

「今住んでいる地域が好きですか」は、全国を上回っており、好ましい状況といえます。しかし、「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」は、全国を上回ったものの、中学生においては、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えた中学生が、7割以上占めていました。

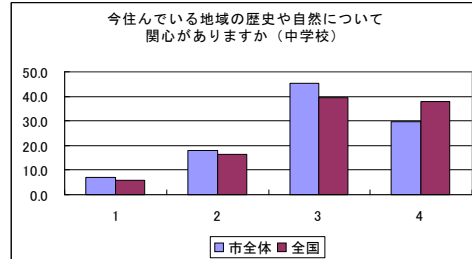
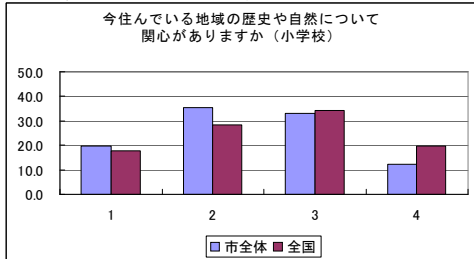
本市は、文化と伝統、美しい自然、そして数多くの史跡がある地域です。合併して間もなく2年目になりますが、子ども達が「自分たちの住んでいる下野市」にもっと関心を持ち、誇りが持てるように、学校・家庭・地域社会とともに取り組んでいくことが大切になります。

○今住んでいる地域が好きですか



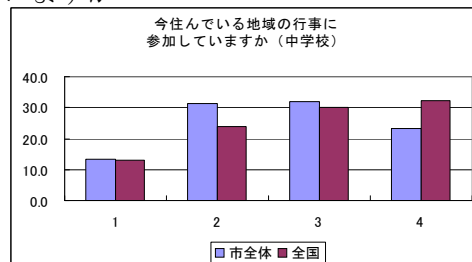
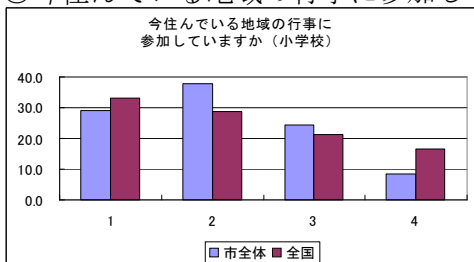
- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

○今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない

○今住んでいる地域の行事に参加していますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
  - 2 どちらかといえば、当てはまる
  - 3 どちらかといえば、当てはまらない
  - 4 当てはまらない